

## 科学研究費助成事業（特別推進研究）公表用資料〔追跡評価用〕



### 「日常生活から見たアジア市民：全アジア世論調査 大規模データの実証研究」

平成 17～20 年度 特別推進研究

「アジアバロメーターを通じたアジア人の生活・規範・価値の実証研究」

所属（当時）・氏名：中央大学・法学部・教授・猪口 孝  
（現所属：新潟県立大学・学長）

#### 1. 研究期間中の研究成果

##### ・背景

アジア・バロメーター研究プロジェクトは、「生活の質」に焦点を当てた大規模世論調査を全アジア 29 カ国で実施し、世界で無比の「生活の質」に関する大規模データを科学的体系的に分析した。世論調査では大規模なデータが創出されるが、これをオープン・アクセスにすることによって、世界中の研究者の間で共有することができ、学術的な目的のためであれば、誰もが分析できるスキームを採用し、国際的発信に務めた。また、研究着手時から、研究成果は、英語及び邦語の両方で学術書、学術論文を積極的に刊行している。

##### ・研究内容及び成果の概要

オープン・アクセスにより、日本だけでなく、外国でもアジア・バロメーターのデータを使う学者が増加し、それを使った学術的刊行も増加している。「生活の質」に焦点を当てたアジア・バロメーターのデータは全アジアをカバーする世界に無比のデータとしても、評判も高くなっている。（アクセス数 317 件 ダウンロード 134 件（平成 25 年度））研究成果をより効果的に還元するために、刊行物は英語で発信するよう務め、その効果は数値に表れている。（研究代表者のグーグル・スカラーの被引用論文数は 2014 年 4 月 19 日現在で、2200、h-index は 24、i10-index は 64 である。）

#### 2. 研究期間終了後の効果・効用

##### ・研究期間終了後の取組及び現状

「生活の質」を軸とした大規模世論調査の実施、分析、刊行は、「人口動態」、「健康と環境」、さらに、「高齢化と平和」についての調査分析に発展している。また、近年経済発展が目ざましいアジア諸国とりわけ、中国やインドなどで深く懸念される「腐敗」について世論調査のコラボが実現するよう研究プロジェクトとして進めている。主要著作は『The Quality of Life in Asia』Springer (2011)、『アジアの情報分析大事典』西村書店 (2013)、『日常生活から見るアジア』岩波全書 (2014 近刊) など多数ある。

##### ・波及効果

本研究プロジェクトは、日本の社会の知名度を高くすること、研究者の評判を高めることを念頭に、マスメディアに積極的に登場できるよう務めた。新聞、ラジオ、テレビにて取り上げてもらうことで、さらに波及効果を高めることが出来たと認識している。

※ 日本経済新聞の朝刊「経済教室」（2013年10月8日）の紙面にて、その成果を公表、有効活用を呼びかけた。

